

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 68人 |
| ② 算数 | 68人 |
| ③ 理科 | 68人 |

5 留意事項

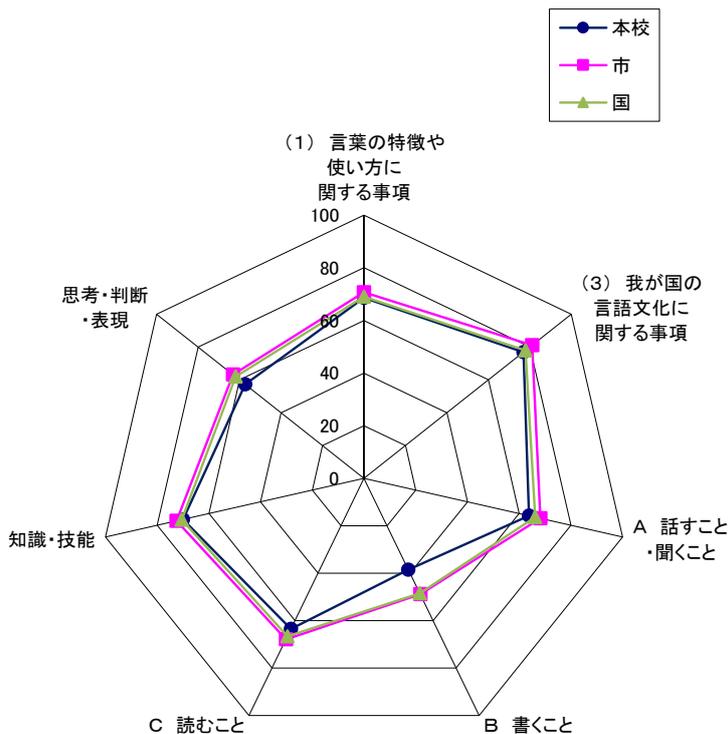
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	68.6	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.9	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	63.8	68.2	66.2
	B 書くこと	38.5	48.9	48.5
	C 読むこと	63.5	67.9	66.6
観点	知識・技能	70.0	72.5	70.5
	思考・判断・表現	57.3	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

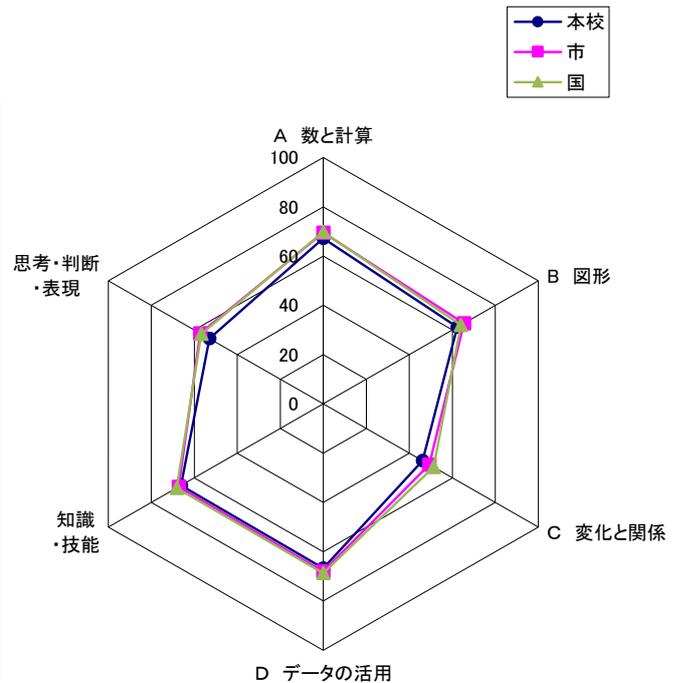
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は68.6%で市平均より2.1ポイント低い。</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題では、市の平均正答率より6.6ポイント高い。</p> <p>●話し言葉と書き言葉との違いを理解する問題では、市の平均正答率より9ポイント低い。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・学年別配当漢字については、漢字練習や小テストの実施、AIドリルの活用を継続し、現在の学力の維持、向上を図っていく。文章を書く際は必ず既習漢字を使うよう指導し、誤りはすぐに訂正して、日常生活の中で適切に漢字を使う力を身に付けさせていく。</p> <p>・文章全体を読み内容を正しく理解し、問題に取り組むことを繰り返し指導する。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は76.9%で市平均より4.2ポイント低い。</p> <p>●漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題では、市の平均正答率より4.2ポイント低い。</p>	<p>・日々のノート指導や書写の授業において、行の中心や漢字と仮名のバランスにも気を配り、読みやすい文章を書く活動を意識的に取り入れていく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は63.8%で市平均より4.4ポイント低い。</p> <p>●必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題では、市の平均正答率より7.2ポイント低い。</p> <p>●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題では、市の平均正答率より1.5ポイント低い。</p>	<p>・話し合い活動において、相手の意見を正確に聞き取り、その意見に対する質問や自分の考えを伝える場を多く設けていきたい。</p> <p>・話し手の意図を捉えて話を聞いたり、自分の考えと比較しながらメモに書き加えたりするなどして、自分の考えをまとめる活動を積極的に取り入れていく。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は38.5%で市平均より10.4ポイント低い。</p> <p>●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題では、市の平均正答率より15.4ポイント低い。</p> <p>●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける問題では、市の平均正答率より5.4ポイント低い。</p>	<p>・文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多いため、授業や行事の振り返り等自分の言葉で表現する練習を繰り返すなど、日常生活の中で文章を書く機会を多く設けていく。</p> <p>・全体の構成を考え、表現を工夫して文章を書くことを意識させていく。</p> <p>・友達の書いた文章を読み、感想を伝えたり、自分の書いた文章を推敲したりする活動を多く取り入れ、書く力を高めていく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は63.5%で市平均より4.4ポイント低い。</p> <p>○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題では、市の平均正答率とほぼ同程度であった。</p> <p>●人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題では、市の平均正答率より9.3ポイント低い。</p>	<p>・叙述を正確に捉え、登場人物の行動や気持ちの変化に着目して物語を読み進めていく学習活動を継続して取り入れていく。</p> <p>・物語を場面ごとに丁寧に読み進めながら人物像や物語の全体像を捉え、深い読みに生かしていくようにする。</p>

宇都宮市立御幸小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.2	69.5	69.8
	B 図形	62.3	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	46.2	49.3	51.3
	D データの活用	66.7	68.0	68.7
観点	知識・技能	66.2	67.3	68.2
	思考・判断・表現	53.0	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

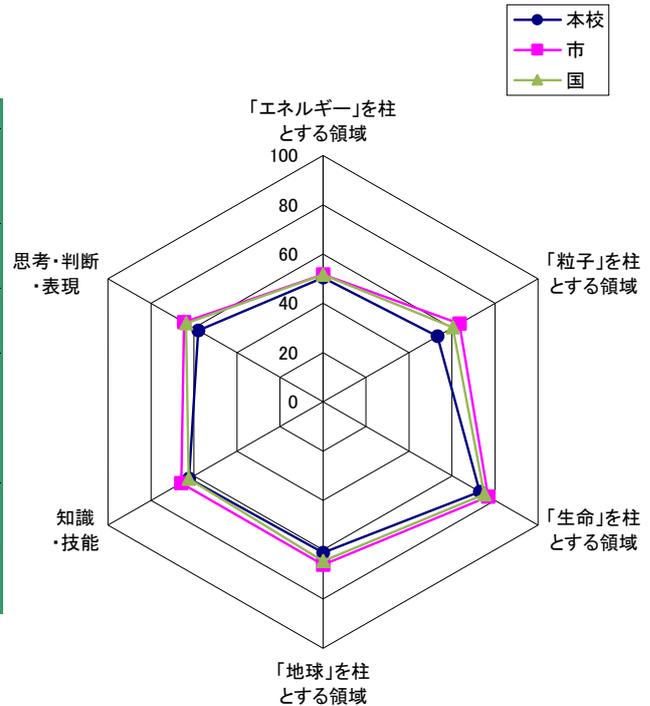
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は67.2%で、市平均と同程度である。</p> <p>○被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする問題では、市の平均正答率より3.2ポイント高い。</p> <p>●示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題では、市の平均正答率より16.8ポイント低い。</p>	<p>・日常場面に即して、判断し計算する問題については、計算の反復練習などを続けることで、計算力を付け日常の場面でも生かせるよう今後も指導していく。</p> <p>・示された場面をしっかりと解釈し、自分の考えを図や式や言葉などで記述し積極的に説明できるよう、グループや全体の学びを授業の中に取り入れるようにして指導していく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は62.3%で市平均より3.1ポイント低い。</p> <p>○図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解する問題では、市の平均正答率より0.4ポイント高い。</p> <p>●正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する問題では市の平均正答率より5.8ポイント低い。</p>	<p>・図形を構成する要素に着目し、図形の性質を見出す力を育むため、授業の中で図形の観察や構成、作図などの活動を意図的に増やして、図形の見方を深めていく。</p> <p>・図形の意味や性質を基に、示されたプログラムに従って図形を書いたり、プログラムについて考えを共有したりする場を授業の中で取り入れ、プログラムに従って図形の意味や性質、構成の仕方について学べるよう指導していく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は46.2%で市平均より3.1ポイント低い。</p> <p>●百分率で表された割合と基準量から、比較量を求める問題では、市の平均正答率より5.7ポイント低い。</p> <p>●百分率で表された割合を分数で表す問題では、市の平均正答率より2.8ポイント低い。</p>	<p>・割合と基準量、比較量をそれぞれ明確に捉えさせることができるよう数直線の書き方に慣れさせ、数量関係を捉えたり立式したりするときの手立てとして習熟度別の学習やグループや全体での学び合いを通して定着させていく。</p> <p>・問題場面の数量の関係を捉えられるよう、図に表して考えることができるよう授業の中で指導していく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は66.7%で市平均と同程度である。</p> <p>○分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題、目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題ではいずれも市の平均正答率と同程度である。</p> <p>●表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める問題では、市の平均正答率より2.4ポイント低い。</p>	<p>・児童の取り組み易い身近な場面から、データを分析して問題を解決する良さを味合わせるよう問題場面を工夫し、目的意識をもって主体的に考えられるよう工夫する。</p> <p>・統計データの特徴や傾向を捉えて、授業の中で考えを出し合う場を意図的に設ける子とにより、データを注意深く読み取る力や多面的・批判的に考える力を育む。</p>

宇都宮市立御幸小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	50.4	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	53.2	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	72.9	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	61.2	66.1	64.6
観点	知識・技能	62.3	65.9	62.5
	思考・判断・表現	58.0	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は50.4%で、市平均と同程度である。</p> <p>○光の性質を基に、鏡を操作して、反射させた日光を当てることができる人を選ぶ問題では、市の平均正答率と同程度である。</p> <p>●実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く問題では、市の平均正答率より4.4ポイント低く、無回答率が12.3%であり、市の平均より7.4ポイント高い。</p>	<p>・日常生活との関わりにふれたり、体験的な学習活動を取り入れたりしていく。</p> <p>・記述式問題に対して、要点を押さえた回答ができるよう、学習したことを活用し、必要な用語を使って簡潔に説明する機会を作っていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は53.2%で、市平均より10.3ポイント低い。</p> <p>●凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く問題では、市の平均正答率より19.5ポイント低く、無回答率が16.9%であり、市の平均より8.7ポイント高い。</p>	<p>・器具の名前や正しい扱い方を確認しながら、実験を行う。</p> <p>・実験や観察の結果をじっくり考察させ、他者の気付きにも興味をもち、自分の意見を文章化させる活動を取り入れていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、72.9%で、市平均より3.9ポイント低い。</p> <p>○育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見出す問題では、市の平均正答率より1.5ポイント高い。</p> <p>●自分の観察の記録と、新たに追加された他者の観察の記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く問題では、市の平均正答率より12.1ポイント低く、無回答率が15.4%であり、市の平均より5.1ポイント高い。</p>	<p>・動植物の観察や実験のまとめ、振り返りを十分に行い、疑問に思ったことについて話し合う機会をもつ。</p> <p>・ペア学習などで、自分の考えを話したり、友達の考えを聞く場面を多く取り入れたりする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、61.2%で、市平均より4.9ポイント低い。</p> <p>●夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見直して選ぶ問題では、市の平均正答率より9.4ポイント低い。</p>	<p>・天気と気温の関係については、観察や実験のまとめ、振り返りを十分に行い、気温を大きく変化させる要因について話し合う機会をもつ。</p>

宇都宮市立御幸小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「読書は好きですか」という質問に対して、肯定的回答をした児童の割合は83.8%で、県平均より10ポイント以上高い。週2回の朝の読書の時間、読書の記録の活用、チャレンジブック読書の奨励など、本校独自の読書活動に今後も取り組み、多読の奨励をしていく。また、学校図書館司書の授業活用(ブックトーク、調べ学習など)やボランティアによる読み聞かせ、「家読(うちどく)」の啓発など、読書活動の充実を図る。

○授業におけるICT機器の活用についての設問では、どの質問においても県の肯定的回答の割合を大幅に上回っている。特に、「意見交流や発表の場面で使用している」と答えた児童の割合は、30ポイント以上高い。また、「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」という質問にも、97%の児童が肯定的な回答をしている。調べ学習だけでなく、自分の考えを深める活動や、友達と意見交流をする場面でICT機器を効果的に活用し、児童の学ぶ意欲や思考力・表現力等の向上に努める。

○●「けいたい電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」という質問に対して、肯定的回答をした児童の割合は80.9%で、県の肯定的割合を9.4ポイント高い。また、普段のゲームの時間について、「1時間以内」と回答した児童の割合は約30%で、県平均を6.3ポイント上回っていた。しかし、「3時間以上」と回答した児童の割合も32%で、県平均を3.7ポイント上回っていた。学級活動の時間や帰りの会などを通して、放課後の過ごし方について話し合う機会を設け、家庭学習や読書、運動する時間を取り入れるなど、中学校に向けて時間を有効に使うことができるよう指導していく。また、帰宅後の時間の使い方や家庭での過ごし方について学年たより等で知らせるなど、家庭への啓発を行っていく。

●各教科において「勉強は好きですか。」の質問では、肯定的回答の割合が国語は同程度であったが、算数は9.5ポイント、理科は5.4ポイント県平均より下回っている。しかし「勉強は大切だと思いますか。」「社会に出たときに役に立つと思いますか。」の質問に対しての肯定的回答の割合は、どの教科も県平均を大きく上回っている。学習内容を定着させるための「できた・分かった」が実感できる授業、そして学習に対する興味・関心が一層高まるような「学ぶよさや楽しさ」が味わえる授業の展開を、今後も工夫して実践していく。

●家庭学習についての設問において、「家で、自分で計画を立てて勉強していますか。」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が県平均よりやや低い。また、授業以外の学習時間に関する質問でも、高学年の家庭学習時間の目安である「1時間以上」と回答した児童が66.1%であり、県平均をやや下回っている。学年だよりを通して家庭学習の大切さについて家庭に呼びかけ、今後も主体的に家庭学習に取り組む態度を育ていけるよう、学校全体で推進していく。

宇都宮市立御幸小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫	・児童が自ら問いをもち、主体的に取り組めるような学習活動の工夫 ・児童の興味・関心・意欲を高め、進んで追究したくなるような課題提示の工夫	・各教科において「勉強は好きですか。」の質問では、肯定的回答の割合が低い。しかし、「勉強は大切だと思いますか。」「社会に出たときに役に立つと思いますか。」の質問に対しての肯定的回答の割合は、どの教科も高く、県平均を大きく上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章でまとめる問題や、求め方を説明する問題では、誤答や無回答が多く見られる。	・一人一人が自分の考えをもち、相手に分かりやすく伝える力の育成	・授業のねらいを明確にし、児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合ったりする活動が充実した授業づくりを目指す。 ・授業のまとめや振り返りにおいて、学習して学んだことを考えさせ、書く目的を意識しながら文章に表すことができるよう指導していく。
・計画的に自分から進んで学習することにおいて、肯定的回答がやや低く、課題が見られる。また、家庭学習に取り組む時間では、高学年の目安の「1時間以上」と回答した児童が約7割で、個人差が大きい。主体的に取り組もうとする態度は、十分育っていない。	・家庭学習の習慣化に向けた指導や自主学習の奨励	・学年の発達段階に合わせた「家庭学習のすすめ」や「家庭学習カード」を活用し、児童が計画的に学習に取り組めるよう指導を工夫する。 ・自主学習の方法や内容について丁寧に指導するとともに、よい取り組みをしている児童のノートを紹介していく。 ・学年だよりや懇談会等で、家庭学習の取り組み方について保護者に理解と協力を求め、家庭との連携を図る。